

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28年度:計画作成主体:紫波町農業再生協議会)(岩手県)

取組の概要

- 対象品目 : キャベツ
(産地面積: 10.0ha)
- 主な取組主体 : 合同会社
アグリコラボサークル
- 成果目標 : 生産コストの
10%以上の削減
基準(H27年度)
202,240円/10a
目標(H30年度)
155,500円/10a
- 導入施設等 : 生産支援事業
機械リース : キャベツ収穫機 1台



岩手県
紫波町
水分地区

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

紫波町水分地区では、キャベツは主要作物であるが、重労働である収穫作業が高齢化する作業員の大きな負担となっており、また、収穫適期を過ぎると出荷できない等、労働力不足が課題となり、面積拡大に取り組みずいた。このため、収穫時期の労働力確保に取り組むことが求められていた。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ・キャベツ収穫機の導入により収穫作業の効率化、労働条件改善により労働力確保及びキャベツの適期収穫を進めることで生産コストの削減を図る。

推進体制

地域の関係者(紫波町、岩手中央農業協同組合、農業関係者等)が一体となり、事業を推進。

構成	役割
取組主体	施設機械の導入、栽培
岩手中央農業協同組合	営農指導
紫波町	各種事業の手続き、栽培試験
県地域振興局	事業推進、関係機関との調整

取組成果

【事業実施による直接効果】

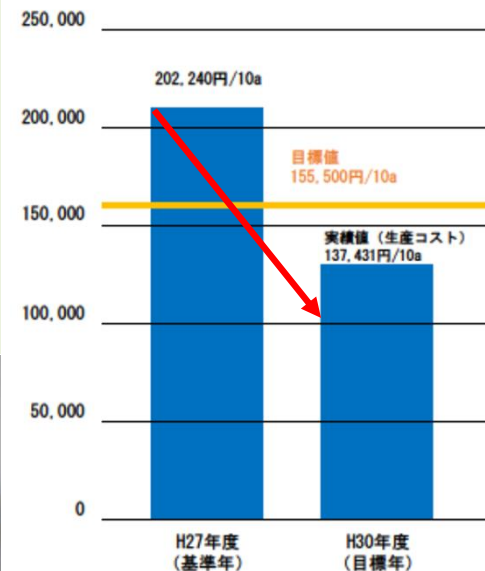
- キャベツ収穫機の導入により、収穫作業の効率化を図り人件費を削減。
- 収穫期間の短縮により適期収穫を徹底し商品の劣化を防ぐ。
- 収穫作業の効率化により、労働環境を改善。

【事業実施による間接効果】

- 収穫作業時間が短縮されたことで、面積を拡大(6.8ha→7.4ha)
- 収穫期間が短縮したことで、収穫(作付)時期を分散



**生産コストが32%減少
(達成率139%)**



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 栽培指導会、実績検討会の開催
- 土壌診断に基づく施肥設計